

地域課題解決に向けての 意見交換会報告書

—品川区議会と品川女子学院生徒—



(品川女子学院 普通教室)

平成29年11月13日(月) 品川女子学院

【開催経緯】

品川区議会では、「区民に開かれた議会」「区民に身近な議会」を目指す議会改革の一環として昨年 11 月 28 日、「地域課題の解決に向けて」をテーマとし、品川区議会と品川女子学院の 1 回目の意見交換会を開催いたしました。

意見交換後のアンケートでは、「区議会議員との話し合いを通じて新たな視点や広い視点を持つことができた」「区議会議員のイメージが変わった」等の肯定的な意見が多く、お互いに成果を得ることができました。

これらを踏まえ、今年度においては、2 回目の意見交換会に向け、同校の学年プレゼンテーションや文化祭にも参加し、事前に意見交換のテーマ・内容を把握するなど準備を重ね、本年 11 月 13 日に同校生徒が授業で調査した地域の諸課題について、各クラスの生徒と品川区議会議員が意見交換を行う特別講座を実施いたしました。

【開催概要】

日 時：平成 29 年 11 月 13 日（月）16:00～17:30

会 場：品川女子学院 普通教室

参加者：品川女子学院生徒（中学 1 年生）、教諭

出席議員：たけうち 忍、大沢 真一、南 恵子、石田 秀男、鈴木 博、
高橋 伸明、つる 伸一郎、新妻 さえ子、石田 ちひろ、大倉 たかひろ、
松永 よしひろ、西本 貴子

（議会報告会等準備会議^{※1}所属品川区議会議員）

テ ー マ：「地域課題解決に向けて」

※1 平成 29 年 5 月より品川区議会では、「議会報告会等準備会議」など 4 会議を立ち上げ、議会改革の取組みを継続しています。

【主なプログラム】

1. 開会あいさつ （議会報告会等準備会議リーダー たけうち 忍）

2. 課題報告 （品川女子学院生徒）

3. 質疑応答

4. 意見交換

6つのグループに分かれ生徒、議員間で意見交換を行った。

5. 意見発表

各グループを代表して生徒、議員それぞれ 1 名より意見発表があった。

6. 閉会あいさつ （議会報告会等準備会議リーダー たけうち 忍）

【意見交換の内容および担当議員】

A組) 地域行事「担当議員：石田（秀）委員、西本委員」

B組) 墓継承問題「担当議員：鈴木委員、つる委員」

C組) かさ忘れ防止「担当議員：たけうちリーダー、石田（ち）委員」

D組) トイレがすぐみつからない「担当議員：南サブリーダー、高橋委員」

E組) 地域に根付いた防犯対策「担当議員：新妻委員、大倉委員」

F組) 1円が足りない問題

～小銭を使わずに買い物「担当議員：大沢サブリーダー、松永委員」

【意見発表での各意見「品川女子学院生徒および区議会議員】

A組) 地域行事

「品川女子学院生徒」

・地域行事は、地域住民の繋がりを深めるとともに、「人との繋がり」を育む大変重要なものです。ただ、少子高齢化により子供たちが減少しつつある中で、若年層、親子連れなどをどう引付けるかが課題です。やはり集客の一つのポイントとしては、来た方を楽しませるためにもまず企画者自身が楽しむという意識が重要であると思います。



「石田（秀）委員」

・意見交換において「おいしい飲食物の提供」「インスタ映え」など解決策が提案されました。また、GOTENYAMA ART & TECHNOLOGY WEEK 2017のコラボレーションに企画段階から参加し、集客に向けた取組みとして挙げていた企画側が楽しむことを実施しており大変感心いたしました。

是非、このテーマについて調査したことをきっかけに、品川区に限らず自身の地域の行事に企画段階から参加していただきたいと思います。

B組) 墓継承問題

「品川女子学院生徒」

・品川区にお墓が多い理由までわからず調査不足を痛感しました。また、遺族の方の気持ちがより重要であると感じました。アドバイスをいただいた点については、今後調査をしていきたいと思えます。



「つる委員」

・今後、団塊世代の高齢化など年間死亡者数の増加が想定される中、お墓の継承について、若い世代の方々が課題として取りあげ、調査いただいたことは大変意義のあるものと思っています。また、意見交換において、この課題について支援をしている自治体がある点など様々お示しさせていただきましたので、引き続き調査・研究を行い新たな提案が出ることを楽しみにしています。

C組) かさ忘れ防止

「品川女子学院生徒」

・「シナカサ^{※2}」を実施していますが、今回の意見交換会を通じて足りないこと、課題が明確になり改善点がわかりました。今日のことは、クラスの皆に話していきたいです。



「たけうちリーダー」

・「シナカサ」は大変素晴らしい取り組みです。意見交換の中で、課題として挙げていた、10%程度である傘の返却率については、この取り組みの趣旨が利用者に伝われば返却率が向上するのではと思います。

また、この取り組みが知られておらず周知が不十分であるとのことですが、インターネットで公式サイトを作成するなど改善策をお聞きしましたので、今後の展開を大変期待しております。

※2 京浜急行・北品川駅と北品川商店街の協力店舗（全13カ所）に置き傘を設置してもらい、急な雨で傘を持っていない時などに無料で使うことができ、設置場所のどこにでも返却できるシステム（期間限定）。

D組) トイレがすぐに見つからない



「品川女子学院生徒」

・当初、「トイレに、はやくいきたい」を問題意識として調査を進めていましたが、その過程で、トイレのきれいさなど別の問題に目が向いてしまい、論点がズれてしまったことを反省しています。あらためて原点に戻り、今後開催される東京2020大会も視野にいれながら、このテーマについて議論していきたいです。

「南サブリーダー」

・「植栽が周りにあるトイレは臭くなかった」など調査いただいた内容を含めて様々な点について意見交換をさせていただきました。調査内容では、成田空港から品川区の福栄会まで実地調査をされていて、特に福栄会のトイレには洗濯機が設置されていることまでも調べており、深く掘り下げて調査していることがわかりました。

また、例えばショッピングモールにおいて場所によってトイレの使用状況が変わってくるので空室が一目でわかるように表示盤があればなどのご意見がありました。

E組) 地域に根付いた防犯対策

「品川女子学院生徒」

・いかに大人が対策をしても、被害に直接あう子ども側が、対策をしなければ意味がなく、目下の問題としては、やはりSNSを通じて知り合った方と実際に会った場合などに起きている被害であり、その対策が必要であると思います。



「大倉委員」

・電車を通学手段とする学生が多いことから、学生専用車両などを設置してほしいこと、またSNSでは、制服で学校が特定されるので注意が必要であるなど若い方ならではの意見が様々ありました。なお今後ですが、犯罪を起こす側の視点から、なぜ行為に及ぶのかなど犯罪心理の側面からも調査を行えば当課題について理解がより深まると思います。

F組) 1円が足りない問題～小銭を使わずに買い物



「品川女子学院生徒」

・武蔵小山商店街では、すでに私たちが考えたポイントシステムを導入しており、その背景等を知ることができ参考になりました。今後、東京 2020 大会開催を視野に訪日外国人や様々な年代の方が利用できるよう改善策をクラスで検討していきたいです。

「松永委員」

・カード払いは、小銭がでないなど便利である反面、支払時においてお店の方のコミュニケーションがなくなるという課題が意見交換で提起されました。

今後も、商店街の活性化を含めて私たちと一緒に研究していただくとともに、品川

区の様々な商店街にも実際に足を運んでいただければと思います。

【アンケートの主な意見】

品川女子学院生徒

- ・ニュースなどでみる議員を通じて、怖いイメージや固いイメージなどを持っていたが、実際に会って話をしたら気さくでとても話しやすかった。
- ・議員の方は厳しいイメージでしたが、意見交換会の際はフレンドリーに接してくださり、また品川区のことを第一に考えていることがわかり、とてもいい方だと思いました。
- ・議員の方とお話ができ、新しい発想を得るとともに問題の解決方法も発見することができました。また今回、このような貴重な機会を頂き、とてもうれしかったです。
- ・議員の方々と話し合うことで問題点が整理され、改善点を見つけることができ、充実したものとなり良かったです。

【主な意見・感想】

議会報告会等準備会議所属品川区議会議員

- ・墓継承問題など生徒が選んだ各テーマは、社会問題等から選ばれており、中学生でその問題に注目し調査されていることに大変関心いたしました。また、どういう経緯でテーマを決めるのか機会があれば是非知りたいと思いました。
- ・SNSの問題について、制服の画像を載せると学校名がわかってしまう「身ばれ」の話題が意見交換の中に出るなど、あらためてSNSをめぐる社会問題や若い方の考えていることを認識でき、大変有意義な意見交換でありました。
- ・第2回は、第1回と比べ参加人数が増え、関心を持たれる生徒が増えている印象を受けました。また、今後、回を重ねる中で、議会と品川女子学院が連携して、地域課題の解決に向けた取組みを実施するなど活動実績を残せばと考えています。
- ・品川女子学院が取組んでいる「シナカサ」は、例えば設置範囲の拡大や駅のわすれものセンターを活用した傘の収集など、いかに事業継続していくかということを経営運用面等から私ども議員が支援し、議会と品川女子学院がコラボすることで、これらの取組みがさらに広がるのではないかと感じました。
- ・タブレットを使いこなした課題報告をしており大変素晴らしいと感じました。また、品川女子学院では、生徒自身がテーマを設定し、実地調査などを経て発表するといった一連の流れにおいて、タブレットを有効活用しておりました。このようなICTの先進的な取組みを品川区の教育にフィードバックできるかということも私たち議員が考えていかなければならないと感じました。

【今後に向けて】

当日は、品川女子学院から生徒23名が参加し、地域課題に対して大変活発な意見交換を行うことができました。今回、意見交換を行った各課題について、さらに調査・研究を進められ、皆さんが社会に貢献できる人材として大きく成長されることを楽しみにしています。品川区議会としても若い世代の方の貴重な意見として真摯に受けとめ、こ

うした取組みを継続的に行い、引き続き区民に「開かれた議会」、「身近な議会」を目指し活動してまいります。